

関係各位

(財)日本バスケットボール協会 審判部

マニュアルの確認と徹底について

レフェリーズ・マニュアル(ツー・パーソン・システム, スリー・パーソン・システム)の以下の点において、若干の混乱と不徹底が見受けられますので、次のように統一見解を通知いたします。
関係各位におかれましては、正しくすみやかな伝達、および確認と徹底をお願いいたします。

1. ツー・パーソン・システム

7. 4 ファウルのあとのスイッチ

ファウルの判定のあとは、両審判は、原則としてコート上の位置を交換する。

ただし、次の場合は、コート上の位置を交換しない。

1. リード・オフィシャルがオフェンシヴ・ファウルを宣したとき

ファウルを宣したリード・オフィシャルは、スコアキーパーにファウルの伝達を終えたあとあたりにトレイル・オフィシャルになる。

トレイル・オフィシャルは、反対側のコートのエンド・ラインに入り、あたりにリード・オフィシャルになる。

2. トレイル・オフィシャルがディフェンシヴ・ファウルを宣したとき(7.8.1, 7.9.2参照)

ファウルを宣したトレイル・オフィシャルは、スコアキーパーにファウルの伝達を終えたあと、引きつづきそのコートでトレイル・オフィシャルになる。

リード・オフィシャルは、引きつづきエンド・ラインでリード・オフィシャルの位置を維持する。

上記の「ファウルのあとのスイッチ」については、次のように確認し、徹底してください。

考え方：

※ 審判がファウルを宣する可能性は、「リード・オフィシャルがディフェンシヴ・ファウルを宣する場合」が多い。

※ したがって、ファウルを宣した審判が次に攻撃が行われるコートでリード・オフィシャルになってしまうと、同じチームのファウルをつづけて宣する可能性が高くなってしまう。

このような状況をなるべくつくりたくないようするために、このメカニック・マニュアルが考えられたのである。

ファウルを宣し、スコアキーパーに伝達をした審判(レポーター・オフィシャル)は、伝達を終えたあとは、次に攻撃が行われるコートでのリード・オフィシャルにならないようにする。

フリースローを行う場合も同様とする。